

## ハクサイ軟腐病（病原菌：*Erwinia carotovora* subsp.*carotovora*(Jones)Bergey et al.）

### ○ 被害と発生生態

発病初期は、地際に接する葉柄や葉や根頭部に水浸状の病斑を形成し、病勢が進むと株全体が萎れ、軟化腐敗して悪臭を放つ。症状が軽い場合は、輸送中や市場などで発症し、問題となることがある。

本病は細菌による病害である。本菌は宿主範囲が広く、ダイコン、トマト、ジャガイモ、ニンジンなど多くの茎葉菜類、果菜類に感染・発病する。栽培終了後は被害株残さと共に土中に残り、翌年の伝染源となる。降雨などにより土と共に飛散し、主に害虫の食害痕などの傷口から感染するが、気孔、水孔からも感染する。発病適温は30℃前後であり、高温多湿条件や台風の影響等で植物体に傷口ができると発生しやすい。

### ○ 防除方法

#### (ア) 耕種・物理的防除

- ・発生ほ場では連作せず、イネ科やマメ科作物と輪作する。
- ・夏季高温時の播種を避ける。
- ・本病に比較的強いとされている「黄ごころ」、「英勲」、「耐病のぞみ60日」などの品種を作付ける。
- ・ほ場の排水対策を徹底し、高畝栽培する。
- ・適正な施肥に努める。
- ・発病株は除去し、ほ場外で処分する。
- ・雨天時の収穫を避ける。

#### (イ) 薬剤防除

- ・結球期頃から発病しやすくなるため、結球前に予防散布する。
- ・台風・強風雨後に予防散布する。
- ・薬液が株元にかかるよう、丁寧に散布する。
- ・害虫の食害痕から感染するので、害虫を対象とした防除を徹底する。



軟化腐敗症状



株の萎れと葉の淡褐色の病斑